様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 ２９ 日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｈ０３６６１

研究課題名（和文）日本企業の高信頼性組織化：組織的視点からの安全とセキュリティの追求

研究課題名（英文）High Reliability Organizing in Japan: In Search of Safety and Security

研究代表者
中西　晶（Nakanishi, Aki）

明治大学・経営学部・専任教授

研究者番号：７０３４７２７７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　10,500,000円

研究成果の概要（和文）：日本企業が高い安全性とセキュリティを追求する組織となるには何が必要かを高信頼性組織の観点から検討した。この分野の代表的研究者Weick and Sutcliffeの著書“Managing the Unexpected 3rd ed.”を訳出し、そこで提示された高信頼性組織化(high reliability organizing)という概念を用いて多面的・重層的な調査を行った。関連分野や対象も拡がり、理論的にも本研究のアプローチである社会構成主義の視点が注目された。最終年度は、「組織化の社会性」を大会テーマとする組織学会の複数セッションで報告することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義としては、第一に安全やセキュリティに関連する「高信頼性組織化(High Reliability Organizing)」という概念を提示したことである。第二に社会構成主義、制度論、実践論、言語論など組織論において近年注目されている研究アプローチから新たな視点を議論したことである。社会的意義としては、第一に安全やセキュリティを強く求められる日本企業はもちろん、学校教育機関や当事者運営組織など多岐にわたって高信頼性組織（化）概念の適用可能性を提示したことである。第二に、サイバーセキュリティにおける組織論的視点の重要性を認識させたことである。

研究成果の概要（英文）：What is necessary for companies to pursue safety and security and become a reliable organization? We argue it from the viewpoint of High Reliability Organization (HRO). We translated the book “Managing the Unexpected 3rd ed.”, which is written by Weick and Sutcliffe, representative researchers in the field. The academic impacts of this research are (1) to present the concept of "High Reliability Organizing" which is related to safety and security, (2) to discuss new perspectives in organization theory, such as social constructionism, institutional theory, practice theory, and discourse theory. The social impacts are (1) to show the applicability of the concept of HRO to a wide range of organizations such as educational institutions and self-supporting organizations, not to mention Japanese companies, which strongly require safety and security, (2) to clarify the importance of an organizational perspective in cyber security.

研究分野：経営心理学、ナレッジマネジメント

キーワード：高信頼性組織　安全　セキュリティ　組織不正　レジリエンス　社会構成主義　制度と実践　言語（言説）

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

高信頼性組織（HRO: High Reliability Organization）とは、過酷な状況下にもかかわらず高い信頼性を維持し続けることのできる組織、言い換えれば、想定外の事態にも強い組織である。われわれは、2000 年代初頭よりこの高信頼性組織についての理論的・実践的研究を継続的に行ってきた。

研究開始当初の日本においては、2011 年の東日本大震災とそれに伴う大津波、そして福島第一原子力発電所の事故という複合災害の経験から「安全とは何か」、企業の「信頼性とは何か」を広い視野から根本的に見直す必要性に迫られていた。にもかかわらず、その後も日本企業において組織の信頼性を大きく損なう事故や不祥事は多発していた。具体例をあげれば、東芝の巨額不適切会計問題（2015 年）や JR 北海道の度重なる事故（2013 年）、数々の食品偽装問題（2013-14 年）、日本年金機構の大規模な個人情報の流出（2015 年）といったセキュリティ問題など枚挙に暇がない。また、理論的には、高信頼性組織の代表的研究者 Weick と Sutcliffe が著書“Managing the Unexpected”の第 3 版を出版し、Weick の組織化(organizing)やセンスメイキング（sense making）の概念を中心に据えた、よりダイナミックな「高信頼性組織化（high reliability organizing）」の概念を提示していた（2015 年）。

一方、われわれも既存の高信頼性研究において不十分な視点や日本独自の研究対象について整理しているところであった。具体的には，初期の研究では、必ずしも明確に認識されていなかった企業倫理や組織ルーティンとの関連、ノーマルアクシデント理論などとの理論的関係性や実証研究における構成概念の問題などを明らかにしてきた。また、研究対象としてわれわれの独自性を示すサイバーセキュリティ分野に対する理論的・実践的に注目が高まっていた。

２．研究の目的

本研究プロジェクトの目的は、上記のような状況において、日本企業として事故・不祥事を防ぎ、高い信頼性を誇る組織となるには何が必要かを高信頼性組織論の観点から分析検討することである。理論的には前述の Weick and Sutcliffe など主として米国で発展してきた高信頼性組織論研究を批判的に検討し、社会構成主義や制度論、実践論の視点を踏まえて再構築していくことが目的である。加えて、日本企業の組織論特徴が安全やセキュリティ、組織不正にどのように影響しているのかを議論する。実践的には、われわれの研究成果をふまえた高信頼性組織論の諸概念や実践のプロセスを企業に紹介していくことで、日本企業の安全とセキュリティの向上、組織不祥事の防止に貢献することを目的とした。

３．研究の方法

本研究プロジェクトは、基本的には社会構成主義の視点に立ち、調査研究の方法としては、高信頼性組織研究の特徴であるトライアンギュレーション(triangulation)を強く意識している。そのため、情報リソースの性質や研究対象の属性などにしたがって、多面的なアプローチを行った。具体的には、高信頼性組織論関連および対象業界についての文献・資料調査、従業員やステークホルダーを対象としたアンケート調査、信頼性の維持に従事する担当者やマネジャーに対するインタビュー調査、事故発生時の従業員および管理者の会話や事故調査報告書の内容を基本データとしたディスコース分析およびネットワーク分析、そして実際の現場を対象としたフィールドワークを行い、これらを統合して、組織における安全とセキュリティの条件を複眼的・重層的に明らかにしてきた。

研究対象は、「原子力関連」「情報通信関連」「航空運輸関連」「化学プラント関連」が当初の中心的な業界であった。その後、災害や事故に対応する地域や地方自治体、燃費不正問題が発生した自動車業界、不正融資問題が発生した金融業界、偽装建築が発覚したハウスメーカー、厳しい状況のなかにある学校教育機関など、研究の進展に伴い対象を拡げた。

４．研究成果

（1）高信頼性組織「化」

初年度(2016 年度)の文献研究の成果の一つとして 2017 年に翻訳出版した Weick and Sutcliffe(2015)の「想定外のマネジメント:高信頼性組織とは何か[第 3 版]」（原題：Managing the Unexpected 3rd ed.）は、本研究プロジェクトはもちろん，日本における高信頼性組織研究における基礎的文献の一つになると期待される。本研究プロジェクトでは，Weick 組織論における「組織化」や「センスメイキング」の概念から導出される、不測の事態に対応するための「高信頼性組織“化”」の議論を中心に、本研究のエッセンスを国内で発表した。また、Weick and Sutcliffe のこれまでの版を比較する作業も行った。2017 年に開催された日本情報経営学会第 74 回全国大会においては、戦略課題研究セッション「想定外のマネジメント－高信頼性組織とは何か」において、関連する 4 本の報告を行った。

また、実務的にも現在進行形で継続的な活動としての「高信頼性組織化」という概念は、リサーチサイトを中心とする日本企業において安全とセキュリティをめざす表象として好意的に受け取られた。

(2)社会構成主義、制度と実践、言語と言説

国内外の組織論研究において本研究プロジェクトの理論的背景やアプローチである社会構成

主義や制度と実践、そして言語（言説）への注目は高まっており、メンバーは継続的に研究成果を報告してきた。

最終年度の 2019 年には、「組織化の社会性」をテーマとする 2020 年度組織学会 60 周年記念年次大会（西南学院大学）において複数の開催校企画セッションで報告することができた。具体的には、「社会構成主義と組織研究」、「構築主義が取り戻す経営学」、「レジリエンスの社会的構成」の３セッションである。「社会構成主義と組織研究」においては、社会構成主義の理論的枠組みについて、チュートリアル的な側面も含めて議論した。「構築主義が取り戻す経営学」では、組織ルーティン研究におけるナラティヴ・アプローチへの展開や組織不正の制度的分析へ向けての言語論的転回の議論を提示した。「レジリエンスの社会的構成」では、高信頼性組織の近接概念でもある「レジリエンス(resilience)」について、概念の社会的構成と使用を概観するとともに、情報セキュリティチームの事例研究からレジリエンスを決意することの二面性について明らかにした。なお、レジリエンス概念については、日本情報経営学会誌において、この概念が既存研究で形状記憶物質、治療、物語という 3 つのメタファーで使用されていることを示し、今後の研究の可能性を展望している。

また、本研究では実践の場における学習や評価、人材育成や人的資源管理の視点からの問題についても検討をした。たとえば、産業現場の事故事例を学習資源とする職場環境要因の研究やワークプレイスラーニング研究における状況論的学習論の課題適用と課題、コンビナートでの組織間学習、採用や人事考課の意味やそれが不祥事に及ぼす影響などの成果がある。

(3)関連分野と対象の広がり

研究方法の項でも説明したが、本研究の過程で当初よりも関連分野や対象が拡がったことも一つの成果である。たとえば、熊本地震における地方自治体の対応、地域研究の文脈で組織事故についての議論においては、一般企業のみならず、地方自治体や地域を対象とした安全やセキュリティ、危機対応を考えることの重要性を示唆した。また、証券不祥事に関するフーコーの系譜学的からの分析により、これまでとは異なる視点から不祥事の「起源」を明らかにした。さらに、当事者運営組織における高信頼性組織概念の適用可能性を論じた。これは、臨床心理学における当事者研究特集号への招待論文であり、薬物依存症の人々が集う DARC など当事者施設運営において高信頼性組織の考え方が活かされるのではないかという招待者（熊谷晋一郎東京大学教授）の問題意識に呼応したものである。

また、当時社会的に注目されていた相次ぐ組織不正についての研究も行った。制度的視点から見た自動車業界の燃費不正問題研究では、2016 年に発生した自動車産業における燃費不正問題について、スズキ自動車と三菱自動車の比較事例研究をもとに、数値化された法的基準が組織不正を誘発するメカニズムを明らかにしている。また、自動車業界の研究例としては他にも Weick and Sutcliffe の翻訳書に登場した 2010 年のトヨタ自動車大規模リコール問題の事例について再検討を行っている。2018 年に相次いで発生したスルガ銀行のシェアハウス不正融資問題やレオパレスの大量施工不良問題についてビジネスプロセスの可視化と組織事故のフレームワークを通じて分析している。さらに、昨今厳しい目が向けられている学校教育機関におけるチームワークの問題についても検討を行った。

もちろん, 当初の研究対象である業界である「原子力関連」「情報通信関連」(別途(4)で紹介)、「航空運輸関連」、「化学プラント関連」についても着実に成果を上げてきた。特に注目すべきは「情報通信関連」、なかでもサイバーセキュリティに関する組織論的研究である。これについては、次項にて詳細を説明する。

(4)サイバーセキュリティにおける組織論的研究

本プロジェクトにおいては、企業におけるセキュリティの社会科学的側面やサイバー(コンピュータ)セキュリティインシデント対応チーム（Cyber/Computer Security Incident Response Team: 以下 CSIRT）を対象とした研究を継続的に行っている。サイバーセキュリティインシデントという不測の事態に対応していかなければならない CSIRT は、高信頼性組織理論との親和性が高い。各企業の CSIRT が集まる団体である日本シーサート協議会(Nippon CSIRT Association: NCA)とは研究代表者が専門委員を務めるなど良好な関係にあり、リサーチサイトから質のよい一次情報を獲得できた。

サイバーセキュリティの研究者・実務家においても社会科学的・組織論的視点が不可欠であるという認識は徐々に強くなっており、2017 年の NCA の 10 周年記念イベントにおいては研究代表者が「進化しつづける CSIRT をめざして－高信頼性組織化の視点から－」というテーマで講演を行った。その後、NCA 運営委員長（寺田真敏中央大学教授）と協働し、情報系の学会（情報処理学会セキュリティ心理学とトラスト研究会 （SPT)・電子情報通信学会情報通信システムセキュリティ研究会（ICSS)）や本研究プロジェクトメンバーのほとんどが所属する日本情報経営学会とも協力し、「学術の場のシーサートワークショップ」を形成して組織論的視点からみた CSIRT について議論を続けている。2018 年には、情報処理学会コンピュータセキュリティシンポジウム(CSS)2018 での企画セッション「研究分野としてのシーサート活動の可能性」においてパネルディスカッションを実施した。こうした活動は今後とも継続する予定である。また、2020 年に、サイバーセキュリティについて技術的側面、法的側面とともに組織論的側面を網羅する入門書を出版した。

(5)アウトリーチ

（4）におけるサイバーセキュリティ関連の講演もその１つであるが、プロジェクトメンバーが所属する大学での公開講座や企業での講演、一般雑誌への執筆などにおいて、広く安全とセキュリティの追求における高信頼性組織の概念と実践についての紹介を行った。また、メンバーが所属する政府・自治体や企業の委員会等において、本研究の成果を生かした発言や助言を行っている。

以上

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計26件（うち査読付論文　13件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 中原翔	４．巻 40(1･2)
２．論文標題 数値化された法的基準が誘発する組織不正：燃費不正の事例研究	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本情報経営学会誌	６．最初と最後の頁 89-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 筈井俊輔，吉野直人	４．巻 39(3)
２．論文標題 組織ルーティン研究における社会物質性の視座：スポーツ・トレーニング組織の比較分析	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本情報経営学会誌	６．最初と最後の頁 40 - 51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松嶋登,矢寺顕行,浦野充洋,吉野直人,貴島耕平,中原翔,桑田敬太郎，高山直	４．巻 39(3)
２．論文標題 社会物質性のメタ理論	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本情報経営学会誌	６．最初と最後の頁 80-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 矢寺顕行,服部泰宏	４．巻 40(1･2)
２．論文標題 価値評価実践としての採用革新：三幸製菓における人材の価値づけの連続的変化	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本情報経営学会誌	６．最初と最後の頁 188-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 三沢良	４．巻 171
２．論文標題 チームワークとその向上方策の概念整理	５．発行年 2019年
３．雑誌名 岡山大学大学院教育学研究科研究集録	６．最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 三沢良，森安史彦，樋口宏治	４．巻 10
２．論文標題 教師のチームワークと学校組織風土の関連性－「チームとしての学校」を実現するための前提の吟味－	５．発行年 2019年
３．雑誌名 岡山大学教師教育開発センター紀要	６．最初と最後の頁 63-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 藤井裕士，熊谷慎之輔，三沢良	４．巻 10
２．論文標題 特別支援学校における「専門職の学習共同体」の醸成 ： カリキュラム・マネジメントおよび専門性の継承・向上の実現との関係性に着目して	５．発行年 2020年
３．雑誌名 岡山大学教師教育開発センター紀要	６．最初と最後の頁 107-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 鈴村美代子，高木俊雄	４．巻 39(4)
２．論文標題 大学学部教育におけるPBLプログラムと拡張的学習：徳島県海陽町における地方創生をテーマとした学びを通じて	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本情報経営学会誌	６．最初と最後の頁 15-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西晶	4．巻 10
2．論文標題 「ゆるゆる組織」のエビデンス―当事者運営組織と高信頼性組織研究	5．発行年 2018年
3．雑誌名 臨床心理学増刊	6．最初と最後の頁 139-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 四本雅人・田中政光	4．巻 1
2．論文標題 組織事故と地域社会	5．発行年 2019年
3．雑誌名 これからのビジネスと地域	6．最初と最後の頁 62-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takagi Toshio、Yotsumoto Masato、Sugihara Daisuke、Nakanishi Aki、Takahashi Masayasu	4．巻 2018
2．論文標題 Are we all in the same boat?: The ‘black company problem’ in Japan	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Academy of Management Proceedings	6．最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.5465/AMBPP.2018.15847abstract	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松嶋登、矢寺顕行、浦野充洋、吉野直人、貴島耕平、中原翔、桑田敬太郎、高山直	4．巻 2018.13
2．論文標題 社会物質性のメタ理論	5．発行年 2018年
3．雑誌名 神戸大学大学院経営学研究科ディスカッション・ペーパーシリーズ	6．最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Naoto Yoshino	4．巻 30(3)
2．論文標題 A Design Perspective on Routine Dynamics: The Carnegie School's Legacy for Routine Studies	5．発行年 2018年
3．雑誌名 松山大学論集	6．最初と最後の頁 85-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 近藤光、寺本直城、杉原大輔、中西晶	4．巻 37(3)
2．論文標題 CSIRTにおけるレジリエン スの罠－日本における現状と課題	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本情報経営学会誌	6．最初と最後の頁 27-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Sayaka Toyokawa, Toshio Takagi	4．巻 1
2．論文標題 The Collapse of the 'Myth of Longevity' and the Construction of Alternatives: The Case of the Okinawan Health Food Industry	5．発行年 2017年
3．雑誌名 2017 AJBS Conference Proceedings	6．最初と最後の頁 69-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Sho Nakahara	4．巻 5(1)
2．論文標題 Theoretical Approaches in Organizational Scandal Research: Invitation to Linguistic Approach	5．発行年 2017年
3．雑誌名 ASIA Pacific Business & Economics Perspectives	6．最初と最後の頁 48-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 福本俊樹、中原翔、西村知晃、金井壽宏	4．巻 37(3)
2．論文標題 使用するレジリエンス研究 ： 「形状記憶物質」「治療」「物語」としてのレジリエンス	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本情報経営学会誌	6．最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中原翔	4．巻 91
2．論文標題 巨大不祥事を対象とした人事考課システムの考察：エンロン事件におけるPRCシステムの断罪	5．発行年 2017年
3．雑誌名 JSHRM Insights	6．最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉野直人、齋藤靖	4．巻 51(3)
2．論文標題 高リスク組織とルール：安全管理研究のアジェンダ再考	5．発行年 2018年
3．雑誌名 組織科学	6．最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉野直人	4．巻 29(3)
2．論文標題 ワークプレイスラーニング研究における状況的学習論の適用と課題 ： 人材育成プログラムを巡る十全的参加と相互構成的な共同体の実践	5．発行年 2017年
3．雑誌名 松山大学論集	6．最初と最後の頁 101-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長谷川尚子、三沢良、山口裕幸	4．巻 30
2．論文標題 産業現場の事故事例を学習資源として活用させる職場環境要因-学習過程で若年就業者が認識する経験間の共通性に着目して-	5．発行年 2017年
3．雑誌名 産業・組織心理学研究	6．最初と最後の頁 119-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 三沢良	4．巻 1
2．論文標題 仕事の能率と安全	5．発行年 2017年
3．雑誌名 産業と組織の心理学	6．最初と最後の頁 173-199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 黒澤壮史	4．巻 13
2．論文標題 コンピュータ・インシデントの歴史的変遷と現代的課題	5．発行年 2017年
3．雑誌名 神戸学院大学経営学論集	6．最初と最後の頁 45-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 星和樹	4．巻 19
2．論文標題 高信頼性組織のオペレーションに関する考察	5．発行年 2016年
3．雑誌名 愛産大経営論叢	6．最初と最後の頁 87-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takashi Majima, Motokazu Udagawa, Masato Yotsumoto and Thomas Taro Lennerfors	4．巻 37(2)
2．論文標題 Green IT Did Not Take Place: The Translation of Environmentally Friendly IT in Japan	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本情報経営学会誌	6．最初と最後の頁 81-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Naoki Teramoto	4．巻 1
2．論文標題 The Game Playing as the Method of Acquiring the Ability of the Cyber Incident Handling	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Asia Pacific Conference on Information Management 2016	6．最初と最後の頁 126-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計64件（うち招待講演　15件／うち国際学会　22件）

1．発表者名 中原翔
2．発表標題 構築主義論争の転轍機としての言語論的転回：組織不正の制度的分析へ向けて
3．学会等名 2020年度組織学会60周年記念年次大会（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 Natsuko Fujikawa
2．発表標題 Inter-organizational Learning for High Reliability Organizing: A Study on Collaborative Human Resource Development in Petrochemical Complexes in Japan
3．学会等名 ICBEIT（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 藤川 なつこ，小室 達章
２．発表標題 組織不正の醸成メカニズム： 企業不祥事事例の比較研究
３．学会等名 日本情報経営学会第79回全国大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 小室 達章，藤川 なつこ
２．発表標題 組織事故研究の視点を用いた組織不正の分析
３．学会等名 日本情報経営学会第79回全国大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉野直人
２．発表標題 高リスク組織における標準業務手続の管理：定型化された実践を生み出す人工物のデザイン
３．学会等名 日経企業行動コンファレンス2019（第28回）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉野直人
２．発表標題 組織ルーティン研究におけるナラティヴ・アプローチへの展開：ostensiveからpatterningへ
３．学会等名 2020年度組織学会60周年記念年次大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 寺本直城
２．発表標題 情報セキュリティ組織の構築プロセス―CSIRTのBourdieuの枠組みを通した分析―
３．学会等名 日本情報経営学会第78回全国大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Naoki Teramoto, Hikaru Kondo, Aki Nakanishi
２．発表標題 A Tentative Study on ‘Ghost Membership’ in Organization: Through a Case Study on a Japanese Association of Cyber Handling Organizations
３．学会等名 SCOS(Standing Conference on Organizational Symbolism) 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 寺本直城,近藤光
２．発表標題 レジリエンスを決意することの二面性―情報セキュリティーチームの事例から―
３．学会等名 2020年度組織学会60周年記念年次大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 黒澤壮史
２．発表標題 社内起業家の支援獲得行動に関する試論的考察
３．学会等名 経営戦略学会2019年度研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 鎌田雅史，三沢良
２．発表標題 学校組織における分散型リーダーシップの効用（1）―教員の多忙感に及ぼす緩衝効果の検討―
３．学会等名 日本グループ・ダイナミックス学会第 66 回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 三沢良,鎌田雅史
２．発表標題 学校組織における分散型リーダーシップの効用（2）―労働時間とストレス反応の関係における緩衝効果―
３．学会等名 日本グループ・ダイナミックス学会第 66 回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 四本雅人，髙木俊雄
２．発表標題 組織研究における社会構成主義の展開
３．学会等名 2020年度組織学会60周年記念年次大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 鈴村美代子，髙木俊雄
２．発表標題 制度的神話の崩壊と再構築―日本における農業組合に着目して―
３．学会等名 2018 年度 第 2 回 組織ディスコース研究部会(IMI 研究会)/第 3 回 JSCOS 合同カンファレンス
４．発表年 2019年

１．発表者名 鈴村美代子，髙木俊雄
２．発表標題 PBLにおける企業側の介入が学生の学習拡張性に与える影響
３．学会等名 日本情報経営学会第78回全国大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Toshio Takagi, Miyoko Suzumura, and Natsuko Matsuno
２．発表標題 The Failure and Reconstruction of Place Branding: The Case of the Opening of the Hokkaido Shinkansen, Japan
３．学会等名 4th Annual Conference of the International Place Branding Association 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中西晶
２．発表標題 レジリエンス概念の社会的構成と実践
３．学会等名 2020年度組織学会60周年記念年次大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中西晶
２．発表標題 高信頼性組織の心理学
３．学会等名 情報セキュリティ心理学研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Ichiro Mizukoshi, Aki Nakanishi
２．発表標題 Subscription; Remedy for Cyber Debris?,
３．学会等名 2019 IEEE Social Implications of Technology and Information Management(SITIM)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Naoki Teramoto, HikaruKondo, Aki Nakanishi
２．発表標題 Management of ‘Wabi-sabi’: From the Case of Japanese Cyber Security Teams
３．学会等名 SCOS/ACSCOS 2018 @Tokyo,Japan（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Naoki Teramoto, Toshio Takagi, Aki Nakanshi
２．発表標題 Dysfunctioning Process of Organizational Citizenship Behavior: The Case study of an Information Security Team in a Japanese Company
３．学会等名 ICEBM2018 @KL,Mayaysia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Natsuko Fujikawa
２．発表標題 High Reliability Organizing and Inter-organizational Learning in Inter-organizational Networks: A Case Study of Collaborated Safety Education in Industrial Complexes
３．学会等名 SCOS/ACSCOS 2018 @Tokyo, Japan（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Natsuko Fujikawa
２．発表標題 Inter-organizational Learning for High Reliability Organizing: A Study on Collaborative Human Resource Development in Petrochemical Complexes in Japan
３．学会等名 ICBEIT 2019 @Singapore（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sho Nakahara
２．発表標題 Examination of Relationship between Institutional Theory and Organizational Wrongdoing
３．学会等名 Interaction between Calculation and Management Practice: Towards Valuation Studies（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sho Nakahara
２．発表標題 Taking on the Linguistic Turn in Organizational Scandal Research: Invitation to Linguistic Approach
３．学会等名 SCOS/ACSCOS 2018 @Tokyo, Japan（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中西晶
２．発表標題 「ブラック企業」概念の誕生―ネットスラングから
３．学会等名 産業・組織心理学会第34回全国大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中西晶
２．発表標題 研究分野としてのCSIRT活動の可能性ー組織論組織論からのシーサート活動について
３．学会等名 情報処理学会コンピューターセキュリティシンポジウム2018（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 白石斉・中西晶
２．発表標題 個人のデータ活用と規制の 将来方向 ― ＧＤＰＲ施行を契機として
３．学会等名 日本情報経営学会第76回全国大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤川なつこ・山本修一郎
２．発表標題 不正の組織化プロセスのArchiMateを用いた分析：シェアハウス不正融資の事例研究
３．学会等名 日本情報経営学会第77回全国大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 山本修一郎・藤川なつこ
２．発表標題 活動分析に基づくビジネスプロセスの可視化手法について
３．学会等名 日本情報経営学会第77回全国大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤川なつこ・山本修一郎
２．発表標題 不正の組織化プロセスに関する一考察：シェアハウス不正融資の事例を通して
３．学会等名 日本経営学会第282回中部部会
４．発表年 2018年

１．発表者名 黒澤壮史
２．発表標題 なぜ経営戦略が組織の変革を妨げるのか： 戦略と権力の理論的考察
３．学会等名 経営哲学学会第35回全国大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中原翔
２．発表標題 リスクと情報技術のインブリケーション：C．チボラの遺稿を参照して
３．学会等名 日本情報経営学会第76回全国大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中西晶
２．発表標題 高信頼性組織の心理学
３．学会等名 情報セキュリティ心理学研究会（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中原翔
２．発表標題 表象のインブリケーション：リスクと情報技術の関係再考
３．学会等名 神戸CSR研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中西晶、四本雅人、杉原大輔
２．発表標題 高信頼性組織(HRO)研究の射程
３．学会等名 経営戦略学会第17回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 寺本直城、近藤光、中西晶
２．発表標題 CSIRTからCSIRTingへ-高信頼性組織化の視点から-
３．学会等名 日本情報経営学会 第74回全国大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Naoki Teramoto, Hikaru Kondo, Aki Nakanishi
２．発表標題 How to enhance the sound 'flesh' and the sound 'spirit' of an organization: through the cases of Japanese cyber security teams
３．学会等名 The 35th Standing Conference on Organizational Symbolism（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Toshio Takagi, Masato Yotsumoto, Daisuke Sugihara, Masayasu Takahashi and Aki Nakanishi
２．発表標題 Organization as cultural cage: exhaustion of flesh and spirit of Japanese laborers
３．学会等名 The 35th Standing Conference on Organizational Symbolism（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Gabriella Elvin, Elin Johansson, Aki Nakanishi and Toshio Takagi
２．発表標題 The organizational cultures effect on information security: A comparison between Japanese and Swedish banking industry
３．学会等名 The 35th Standing Conference on Organizational Symbolism（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Sayaka Toyokawa and Toshio Takagi
２．発表標題 The Collapse of the 'Myth of Longevity' and the Construction of Alternatives: The Case of the Okinawan Health Food Industry
３．学会等名 2017 AJBS Conference（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 中西晶、北村士朗
２．発表標題 熊本地震の振り返りから見 る「想定外のマネジメント 」(1)(2)
３．学会等名 第８回横幹連合コンファレンス
４．発表年 2017年

１．発表者名 牧野尚彦、水越一郎、中西晶、上原哲太郎、　後藤 厚宏
２．発表標題 自治体セキュリティ強靭化に関する調査報告
３．学会等名 経営情報学会2018年春季全国研究発表大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中原翔
２．発表標題 組織不祥事の系譜学：『証券不祥事』を対象とした事例記述をめぐって
３．学会等名 日本情報経営学会第74回全国大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 中原翔
２．発表標題 人材育成における状況的学習の可能性
３．学会等名 同志社大学大学院ビジネス研究科DBS良心塾（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 吉野直人
２．発表標題 高信頼性組織のマネジメント
３．学会等名 第4回日本医療安全学会学術総会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 吉野直人
２．発表標題 高信頼性組織に見る想定外の事態のマネジメント
３．学会等名 第76回日本公衆衛生学会総会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 吉野直人
２．発表標題 高信頼性組織のルールマネジメント
３．学会等名 日本情報経営学会第74回全国大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 矢寺顕行
２．発表標題 経営実践における計算と評価の問題
３．学会等名 RIEBセミナー「経営学研究のフロンティア：環境経営、管理会計、組織・人事領域の研究動向レビューと経験的研究の方向性」（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 藤川なつこ
２．発表標題 組織間ネットワークにおける高信頼性組織化と組織間学習：コンビナートにおける協働人材育成の事例研究
３．学会等名 日本情報経営学会第75回全国大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Hasegawa, N., Misawa, R., & Yamaguchi, H.
２．発表標題 Effects of workplace on enhancement of work beginners' awareness of similiarities among failure experience.
３．学会等名 The 31st International Congress of Psychology（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 三沢 良・藤川なつこ・渕 真輝
２．発表標題 海上運行実習チームのチームワーク評価に関する研究
３．学会等名 産業組織心理学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Masayasu Takahashi, Masato Yotsumoto, Toshio Takagi, Aki Nakanishi
２．発表標題 The Dark Side of Japanese Management: ‘Black Company’ in Japan
３．学会等名 The Association of Japanese Business Studies (AJBS) 29th Annual Conference（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Aki Nakanishi, Masato Yotsumoto, Toshio Takagi
２．発表標題 Do Economic Animals in Rabbit Hutches Want to Become Tamed Cattle in Dark Enterprise?
３．学会等名 The 34th Standing Conference on Organizational Symbolism（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 高橋正泰・四本雅人・高木俊雄・中西晶
２．発表標題 ブラック企業にみる日本的経営の意味―経営者と従業員の言説的不協和―
３．学会等名 経営行動研究学会第26回全国大会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 杉原大輔・中西晶・四本雅人
２．発表標題 ワイク＆サトクリフにみる高信頼性組織(HRO)研究の変遷
３．学会等名 第70回組織学会九州支部例会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Naoki TERAMOTO, Masayasu TAKAHASHI
２．発表標題 The issue of Animal Metaphor of Organization: From Horse, Cell to Dynamic Equilibrium
３．学会等名 The 34th Standing Conference on Organizational Symbolism（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 寺本直城
２．発表標題 実践共同体としての遊び―情報セキュリティ組織の人材育成を事例として
３．学会等名 日本経営学会第90回大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Naoki TERMOTO
２．発表標題 The Game Playing as the Method of Acquiring the Ability of the Cyber Incident Handling
３．学会等名 Asia Pacific Conference on Information Management 2016（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 中西晶・ 北村士朗
２．発表標題 「エリート・パニック」は避けられるのか－被災自治体間の経験知伝承と学習の可能性
３．学会等名 第7回横幹連合コンファレンス
４．発表年 2016年

１．発表者名 Aki Nakanishi
２．発表標題 Human Resource Management in Japan: Past, Present, and Future
３．学会等名 IKMAP2016 University Visit（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Takuho Mitsunaga, Daisuke Sugihara, Yoshiki Sugiura and Aki Nakanishi
２．発表標題 Current Conditions of CSIRTs in Japan: From Fact-finding Surveys
３．学会等名 Asia Pacific Conference on Information Management 2016（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 中西晶
２．発表標題 日本における災害対応と「エリートパニック」
３．学会等名 日本情報経営学会第73回全国大会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 中西晶
２．発表標題 高信頼性組織理論から見た組織不祥事
３．学会等名 経営哲学学会第33回全国大会（招待講演）
４．発表年 2016年

〔図書〕　計15件

１．著者名 上林 憲雄・庭本 佳子編著、中原翔、他	４．発行年 2020年
２．出版社 文眞堂	５．総ページ数 260
３．書名 経営組織入門	

１．著者名 杉浦芳樹、萩原健太、北條孝佳、中西晶	４．発行年 2020年
２．出版社 技術評論社	５．総ページ数 256
３．書名 今からはじめるインシデントレスポンス――事例で学ぶ組織を守るCSIRTの作り方	

１．著者名 人材育成学会編、中西晶、三沢良、他	４．発行年 2019年
２．出版社 金子書房	５．総ページ数 721
３．書名 人材育成ハンドブック	

１．著者名 高橋正泰監修、髙木俊雄、四本雅人編、星和樹、寺本直城、他	４．発行年 2019年
２．出版社 学文社	５．総ページ数 244
３．書名 マクロ組織論	

１．著者名 山口裕幸編著、三沢良、他	４．発行年 2019年
２．出版社 NHK出版	５．総ページ数 248
３．書名 産業・組織心理学（放送大学教材）	

１．著者名 角山剛編、三沢良、他	４．発行年 2019年
２．出版社 北大路書房	５．総ページ数 256
３．書名 組織行動の心理学：組織と人の相互作用を科学する	

1．著者名 山田真茂留編著、黒澤壮史、他	4．発行年 2018年
2．出版社 文眞堂	5．総ページ数 238
3．書名 グローバル現代社会論	

1．著者名 ハリウッド大学院大学監修、寺本義也・中西晶編著	4．発行年 2017年
2．出版社 同友館	5．総ページ数 209
3．書名 サービス経営学入門：顧客価値共創の戦略経営	

1．著者名 中西晶監訳、高木俊雄、四本雅人、星和樹、三沢良、黒澤壮史、寺本直城、矢寺顕行、吉野直人、藤川なつこ、中原翔	4．発行年 2017年
2．出版社 文眞堂	5．総ページ数 181
3．書名 想定外のマネジメント：高信頼性組織とは何か[第3版](翻訳)	

1．著者名 服部泰宏、矢寺顕行	4．発行年 2017年
2．出版社 中央経済社	5．総ページ数 288
3．書名 日本企業の採用革新	

１．著者名 谷口淳一・相馬敏彦・金政祐司・西村太志編著、三沢良、他	４．発行年 2017年
２．出版社 北樹出版	５．総ページ数 191
３．書名 エピソードでわかる社会心理学	

１．著者名 國部克彦・澤邉紀生・松嶋登編、矢寺顕行、他	４．発行年 2017年
２．出版社 有斐閣	５．総ページ数 268
３．書名 計算と経営実践：経営学と会計学の邂逅	

１．著者名 山田幸三・江島由裕編、矢寺顕行、他	４．発行年 2017年
２．出版社 碩学舎	５．総ページ数 260
３．書名 １からのアントレプレナーシップ	

１．著者名 中原翔、他	４．発行年 2016年
２．出版社 経営学の批判力と構想力（経営学史学会年報 第 23輯）	５．総ページ数 174
３．書名 文眞堂	

１．著者名 北村英哉・内田由紀子編、三沢良、他	４．発行年 2016年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 398
３．書名 社会心理学概論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

杉原大輔、吉野直人、安全文化からセンスメイキングへ：Weick and Sutcliffe理論の変遷に見る高信頼性組織のエッセンス、神戸大学大学院経営学研究科ディスカッション・ペーパー、2019・19、１ – 17、2019年6月
中原翔、経営組織に見舞う問題への人事的対応―不祥事・不正に対して人事は何をすべきなのか―、日本人材マネジメント協会、2019年7月
中原翔、作られた組織不祥事という不都合な真実、日本人材マネジメント協会、2018年4月
中原翔、想定外のマネジメント：高信頼性組織について、大阪産業大学公開講座、2017年10月
中原翔、人材育成における状況的学習の可能性、同志社大学大学院ビジネス研究科（DBS良心塾）、2017年8月
中西晶、進化しつづけるCSIRTをめざして－高信頼性組織化の視点から－、日本シーサート協議会10周年記念集会、2017年8月

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	高木　俊雄 (TAKAGI TOSHIO) (80409482)	昭和女子大学・グローバルビジネス学部・准教授 (32623)	
研究分担者	四本　雅人 (YOTSUMOTO MASATO) (90547796)	長崎県立大学・経営学部・准教授 (27301)	
研究分担者	星　和樹 (HOSHI KAZUKI) (10409485)	愛知産業大学・経営学部・准教授（移行） (33927)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	三沢　良 (MISAWA RYO) (90570820)	岡山大学・教育学研究科・准教授 (15301)	
研究分担者	黒澤　壮史 (KUROSAWA MASASHI) (10548845)	日本大学・商学部・准教授 (32665)	
研究分担者	寺本　直城 (TERAMOTO NAOKI) (10755953)	拓殖大学・商学部・助教 (32638)	
研究分担者	矢寺　顕行 (YATERA AKIYUKI) (20582521)	大阪産業大学・経営学部・准教授 (34407)	
研究分担者	吉野　直人 (YOSHINO NAOTO) (20710479)	松山大学・経営学部・准教授 (36301)	
研究分担者	藤川　なつこ (FUJIKAWA NATSUKO) (30527651)	神戸大学・海事科学研究科・准教授 (14501)	
研究分担者	中原　翔 (NAKAHARA SHO) (50780681)	大阪産業大学・経営学部・准教授 (34407)	
研究協力者	杉原　大輔 (SUGIHARA DAISUKE)	明治大学・経営学研究科・教育補助講師 (32682)	